
罪の意識
やすだ たくお



コッ コッ
コッ コッ コッ コッ
ガチャリ
ギーーッ
やあ！
よお！


……
どうしたのシンコクな顔して……
顔色が悪いぜ
たいへんなことになったよ……
おいおいおどかさんでくれよ
で、なんだいたいへんなことって


じ
っ
は
実は井島慎がいなくなった
というより旅に出た
しょうだんじゃないよこの忙しい時に
ソレホントなの
それはないと思うよ俺アシスタントやってんだぜ・ホント
そんなこともあるかも知れんな彼っていつも何か考えてるよくあれで仕事ができると感心してるんだ彼はもう帰ってこないかもしんないよ


それにしても無責任だな 今連載中の「ケメ子ちゃん」どうするんだろ
それは別に心配ないんだけど……今週で終わったんだ
手まわしがいいな
ウム
俺は一体どうすりゃいいんだ
心配するなめんどうみてやるよ
でも旅に行ったんなら……
また帰ってくるよくよくよしなさんな
そうじゃないらしいんだ手紙が置いてあった
それによるともう週刊誌から足を洗うと書いてあるんだ
ぼくは、ぼくはどうすりゃいいんだ
編集長になんて言ったらいいんだ
ウェーン
ぼくもだ


一体原因は何だろ
君知ってるのかその原因？
ぼくも全然見当がつかないんだ
そんなことわかるもんか
いつも何を考えてるのか
そうなんだ
そうだよな彼ってそんな奴だよな
手がかりが全くないってわけだよな




ファン・レター
小玉かえる
変わった
名前だな

拝啓

　慎先生、はじめてお便りします。私は昨年高校を卒業して20歳になる者ですが、先生のこのごろの作品を拝見してたいへん悲しくなっていくのをかくすことができません。
先生が漫画を描きはじめられてから7年というもの、私はそのほとんどの作品を読んできました。2年前までの単行本時代の先生の作品には、私は心の底から感動し、このような作家がこの日本にいることを誇りにさえ思っておりました。そして先生の人間性、ものの考え方、それらを私は私なりに消化して、作品を通してみる先生の生き方に深い感銘を覚え、泣いたことさえありました。しかし、先生が単行本から雑誌に転向された時から私が先生に対して持っていたそういう感情が、はかなくも崩れていくのをどうすることもできませんでした。
先生にはそれ相当の理由があったのかもしれませんが、私にはがまんできなかったのです。
私には、あなたの熱狂的ファンで あなたの作品を誰よりも愛しあなたまでをも愛した一人の友達がありました。その友達は1年ほど前から病気になり、昨日とうとう息をひきとりました。あなたの古い単行本を、いっぱい枕もとに並べて死んでいったのです。その作品だけであなた自身を愛してしまった私の友達――ほんとうにバカな友達………　でもわかるような気がします。
彼女はいつも言っていました。あなたに前のような作品を描いてほしい、と。それだけで私はしあわせに死んでゆける、と。彼女はあなたがほんとうに好きだったのです。雑誌の作品も欠かさず読んでいました。そして、あなたが昔のような作品を描いてくれることだけをねがって彼女は死んでいったのです。　お願いです。おもい出して下さい。あなただけのあなたではないのです。死んだ彼女のためにもより立派な作品を描いて下さい。今後のご健筆を祈っております。

〇月×日

かえるより

井島慎様



俺にはショックだった
本当は描きたかったんだ
でも金儲け主義に走らねばならない
理由があったのだ……
親爺の会社がつぶれかけていたんだ
ちっちゃな会社だったけど
親爺にはその会社が命だった……


漫画ばかり描いていたおれは勘当されていたんだがやっぱり親爺が好きだったんだ
金が欲しかった……。これまでの親不孝をつぐなえたらと思って俺は地獄へ行ったんだ……………
別に苦しくはなかったけど俺はもぬけのからになってしまった
でもあの手紙のくる少し前に親爺の会社はもりかえしたんだうれしかった…泣いたな


もう少し待っててほしかった…………
こんな仕事で人は助けられないのにこんな仕事で人が死んだ………
完